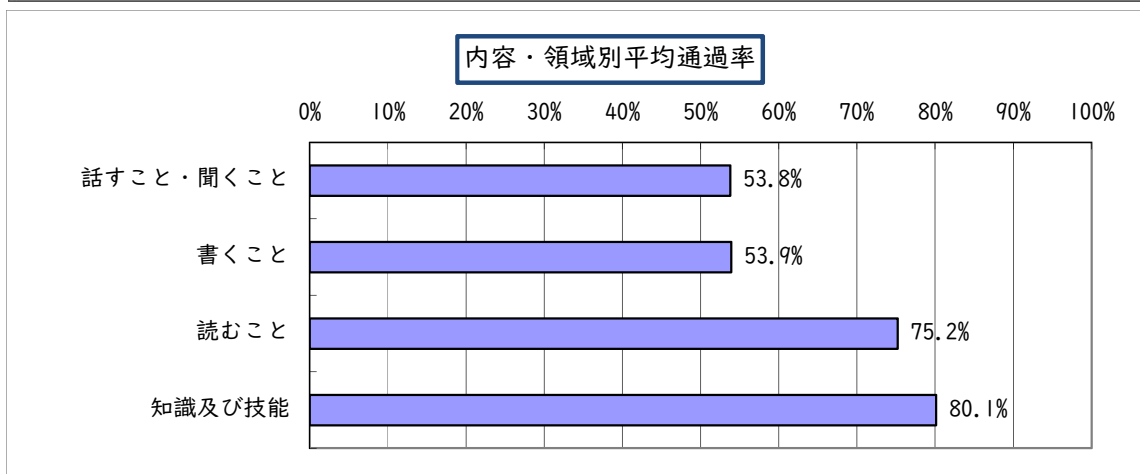
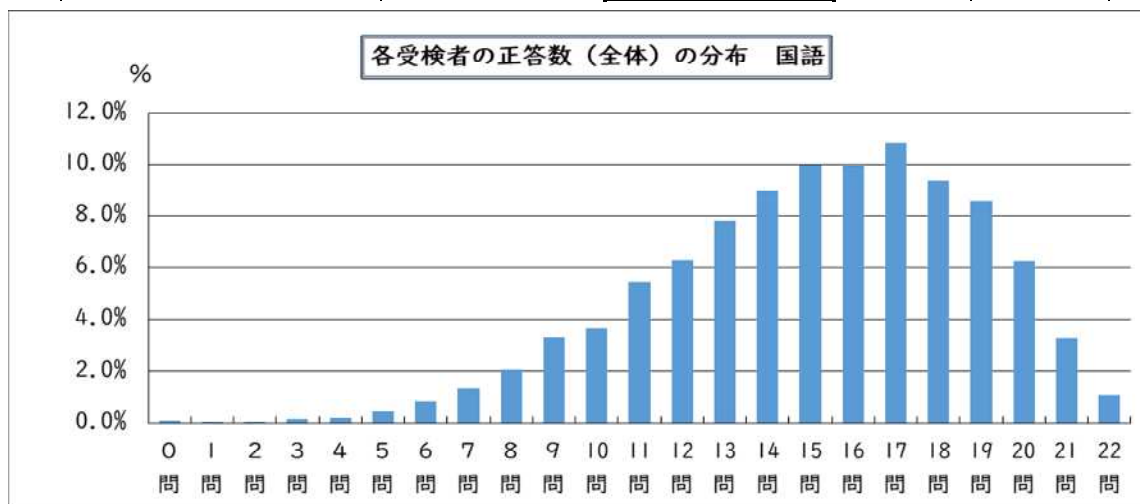


## IV 結果の詳細について（授業改善のポイント）

小学校第5学年【国語】

(1) 国語の平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率				
		小5	中1	中2
	知識・技能	80.1%	74.1%	62.6%
思考・判断・表現	60.4%	77.6%	67.9%	
全体	68.5%	75.9%	65.6%	



- 「知識・技能」の平均通過率は80.1%で、令和4年度より4ポイント上回りました。大問1はこれまでの一問一答形式ではなく、学習場面の中で「知識・技能」を問う形式で出題しましたが、概ね文脈を理解し正答を導き出すことができています。一方、大問1(3)「熟語(小4)」の平均通過率は51.7%と低くなっていることから、今後も、関係学年の当該単元のみでの学習にとどまらず、全学年における様々な言語活動を通して、辞書や辞典、インターネット等を利用して意味等を調べたり、文章中の表現から類題を作成・出題したりするなどして定着を図ることが大切です。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は60.4%で、令和4年度より4.7ポイント下回りました。特に、「書くこと」の平均正答率は53.9%で、令和4年度より16.5ポイント下回っています。また、最終問題の大問4(3)「記述式」の平均正答率は32.8%、無答率は10.8%となっています。出題数の増加(令和4年度より3問増)や大問1の出題形式の変更によって解答に時間がかかり、最後の問題まで解答する時間を十分確保できなかった児童が多かったのではないかと考えられます。今後は、言語活動の充実を図り、目的や意図を捉える力や自分の考えを表現する力を高めるとともに、時間意識をもたせ、限られた時間の中で取り組ませることが大切です。
- 児童質問紙において、「授業で、タブレットやパソコン、電子黒板等をどれくらい活用していますか」については、「ほぼ毎日使用している」「週2、3回程度使用している」と回答した割合が64.9%と、他の教科・学年より高い結果になっています。今後も、特に「話すこと・聞くこと」における動画や録画の活用など、目的に応じてICTの効果的な活用を図っていくことが大切です。

(2) 各設問の分類と平均通過率

国語(小学校第5学年)

設問	設問			内容領域別				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図	
	大問	中問	小問	出題学年	知識及び技能	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率		無解答率
1	1	1	小3	○				○		81.9%	0.2%			簡単な単語についてローマ字で表記されたものを読んだり、ローマ字で書いたりすることができるか。	
2		2	小4	○				○		98.4%	0.1%			学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり、書いたりすることができるか。	
3		3	小4	○				○		51.7%	0.2%				
4		4	小3	○				○		60.9%	0.2%			文の中での修飾と被修飾の関係について理解しているか。	
5		5	小2	○				○		59.1%	0.3%			文の中での主語と述語の関係について理解しているか。	
6	2	1	小5	○				○		97.0%	0.1%			目的や場に応じて、適切な敬語を使うことができるか。	
7		2	小4	○				○		90.1%	0.1%			敬体と常体との違いを理解しているか。	
8		3	小4	○				○		93.6%	0.1%			慣用句の意味を理解しているか。	
9		4	小3	○				○		88.2%	0.1%			手紙の形式を理解しているか。	
10	2	一	中学年				○	○		85.2%	0.1%			登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることができるか。	
11		二	中学年				○	○		58.8%	0.3%			情景について、場面の移り変わり結び付けて読むことができるか。	
12		A	中学年					○	○		70.4%	0.2%			自分の考えとそれを支える理由の関係を捉えることができるか。
13		B						○	○		86.6%	0.2%			
14	3	一	高学年			○		○		86.9%	0.1%			図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することができるか。	
15		二	高学年			○		○		70.6%	0.1%			図表やグラフなどを用いた目的を捉えることができるか。	
16		三	高学年			○		○		68.8%	0.3%			情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることができるか。	
17		四	中学年			○		○		21.0%	8.5%			文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができるか。	
18		五	高学年			○		○		43.3%	6.3%			目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるか。	
19	4	一	高学年		○			○		76.3%	1.9%			集めた材料をお互いに結び付けて関係を明確にすることができるか。	
20		二	高学年		○			○		51.5%	0.9%			目的を意識して、情報を比較したり分類したりして、必要な事柄を選ぶことができるか。	
21		1	高学年		○			○		33.5%	3.7%			目的や意図に応じて、分類したり関係付けたりしながら、伝え合う内容を検討することができるか。	
22		2	高学年			○		○		32.8%	10.8%			資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるか。	
計			問題数	9	3	6	4	9	13						
			出題割合	40.9%	13.6%	27.3%	18.2%	40.9%	59.1%						
											68.5%	1.6%			

(3) 国語<小学校第5学年>

ア 特徴ある問題から 大問 4

(小学校学習指導要領解説 国語編

B「書くこと」 P141~145)

特徴ある問題として、過去の全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査の結果から課題となっている「自分の考えが伝わるように複数の資料を関係付けること。」「調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書くこと。」について出題しています。

**中間3**

中野さんは、**スライド⑤**を使って、食品ロスについてこれからやってみたいと考えている取り組みをしようかしようと考えています。あなたが中野さんなら、どのように伝えますか。【発表メモ】の**C**に【学級でのアンケート調査】と【資料】をもとに、次の条件に合わせて五十字以上、八十文字以内で書きましょう。

〈条件〉

- 1文目に【学級でのアンケート調査】から分かったことを書き出しに続けて書くこと。
- 2文目に【資料】からこれから中野さんがやってみたいと考えている取り組みについて書くこと。

本問題における平均通過率は**32.8%**、無答率は**10.8%**となっています。原因として、限られた時間の中で問題の意図を捉えて情報を整理したり、問題の条件に応じて自分の考えや根拠を記述したりするような授業が十分に成されていない可能性があります。そこで、次のような視点での授業改善が考えられます。

イ 授業改善のポイント

「書くこと」の授業においては、単元を通して、複数の資料を活用して考えを形成し共有する活動、相手や目的、評価を意識し推敲する活動を位置付け、情報と情報の関係についての理解を深めながら行う必要があります。その際、次の点に留意することが重要です。

- ① 一人で記述する時間、グループ等で話し合う時間を確保し、設定した時間内で取り組むようにする。具体的には…
  - 複数の資料から情報を抜き取り、自分の考えを明確にしながら書く。
  - 友達がどの情報を選択し、どのように考えたかを聞き、質問する。
  - 自分と友達の考えの違いを話し合ったり、友達の考えのよさを認め合ったりする。

本問題では、「分かったこと」「中野さんの立場に立った考え」のどちらも資料内の文章から選択して記述します。それぞれ着目する言葉とその関係を丁寧に確認しましょう。

三 中野さんは、取材して分かったことを、スライドを使って発表をします。

【発表メモ】

**スライド①** 自分たちや地球を守るために  
～ゴミ問題から考える～

**スライド②** 名前(コナン)の発表

**スライド③** 環境を守る工夫  
【取材1】  
【取材2】

**スライド④** B 工夫

**スライド⑤** 食品ロスの理由

【発表メモ】

**スライド⑤** 食品ロスの理由

食品が腐ったから	54.7%
賞味期限を過ぎたから	23.7%
味が好みでなかったから	13.6%
使いきれなかったから	9.7%
量が多かったから	7.3%

※複数回答

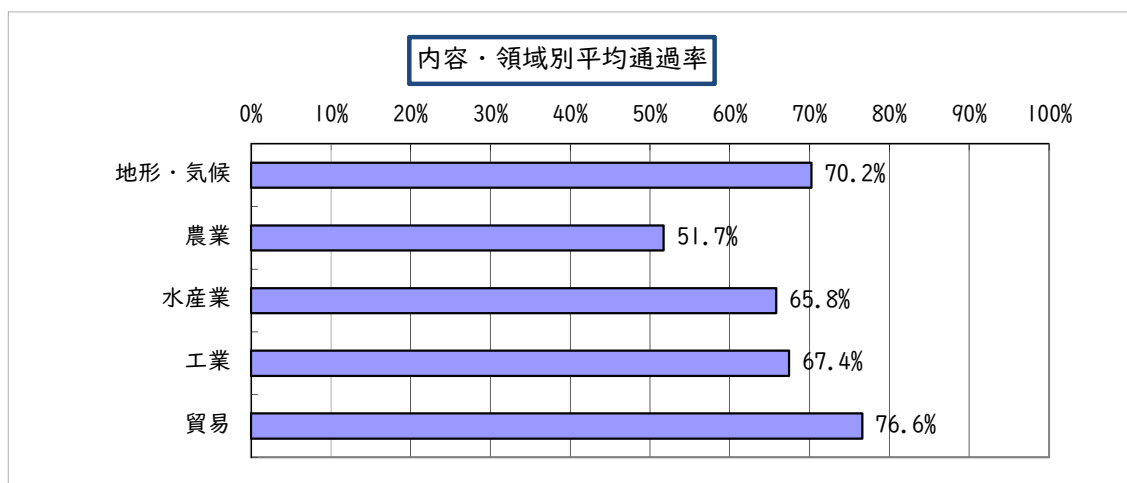
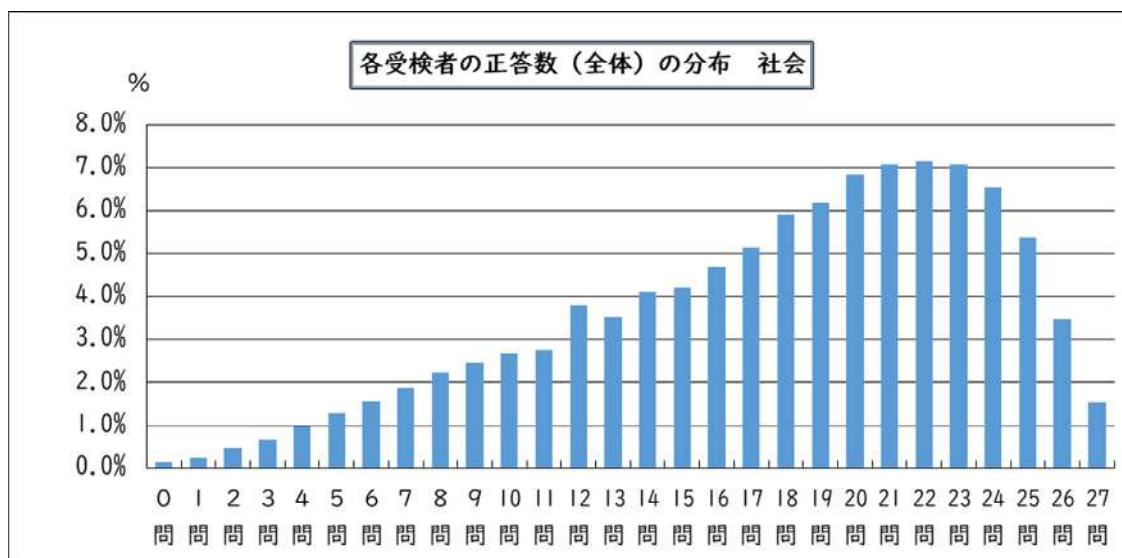
- ② 評価規準を明確にし、「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)への手立てを講じる。具体的には…
  - 言語活動を踏まえて、事前にルーブリックやゴールモデルを作成する。そして、具体的な方法で児童の反応を分析、評価しながら個別や全体で指導を行う。
  - 発達の段階に応じて、自己評価や相互評価を行う場面を設定する。特に、自己評価については、実際の言語活動と関連付けながら分析し、評価と指導に生かす。

本問題では、条件をそれぞれ満たしているか、解答類型を作成して一つずつ確認することが大切です。その際、「知識及び技能」の指導事項(「原稿用紙の使い方」「指示する語句や接続する語句」「話し言葉と書き言葉」と関連付けましょう。

小学校第5学年【社会】

(1) 社会の平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率				
		小5	中1	中2
	知識・技能	64.6%	52.9%	60.6%
	思考・判断・表現	66.6%	57.3%	65.5%
全体	65.3%	54.4%	62.3%	



- 「知識・技能」に関する問題の平均通過率は64.6%です。特に、地図記号から土地利用の様子を読み取る問題（36.9%）、八方位を問う問題（45.0%）の通過率が低くなっています。基本的な用語、地名等については、十分な理解を図る必要があります。また、日常の授業の中で、折に触れて、地図帳を活用したり、定期的に復習を行う機会を設けたりして、確実な定着を図る工夫も必要です。
- 「思考・判断・表現」に関する問題の平均通過率は66.6%であり、特に、雨温図の特徴を説明する問題（50.1%）、米の消費量を増やすための取組について、資料から読み取り、自分の言葉で説明する問題（56.5%）の通過率が低くなっています。雨温図などの資料については、どこに着目すればいいかなど、ポイントとなる部分に児童が自ら気付けるような指導を行い、さらに、授業の終末には、資料を読み取るポイント等についても、自分の言葉でまとめさせるなどの振り返りを行うことが大切です。
- 内容・領域別で平均通過率が低かったのは「農業」で、特にグラフから米の消費量を読み取る問題は30.8%と低く、定着が図られていませんでした。日常の授業の中で、資料を読み取る活動を取り入れる必要があります。

(2) 各設問の分類と平均通過率

社会(小学校第5学年)

設問	設問			出題学年	内容領域別					評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中間	小問		地形・気候	農業	水産業	工業	貿易	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	(1)	小5	○					○		55.7%	1.3%			世界の海洋を正しく理解しているか。	
2		(2)	小5	○					○		71.1%	1.3%			我が国の国土の位置について説明することができるか。	
3		(3)	小5	○					○		88.3%	0.2%			地図から、日本の周りの国々の位置を読み取ることができるか。	
4		(4)	小5	○					○		78.7%	0.2%			我が国の固有の領土の名称と位置などを理解しているか。	
5	2	(1)	小5	○					○		77.8%	0.8%			日本の特徴的な気候について理解しているか。	
6		ほるか	小5	○					○		73.4%	0.2%			各地の雨温図を比較し、各地の気候の特色を選択することができるか。	
7		かなこ	小5	○					○		77.3%	0.2%				
8		(3)	小5	○					○		58.9%	0.2%				説明に必要な資料と必要でない資料を選択することができるか。
9	(4)	小5	○					○		50.1%	0.1%			2つの雨温図を比較して、鹿児島県の冬季の気候の特色を説明することができるか。		
10	3	(1)	①	小3 小4 小5	○				○		36.9%	2.9%			土地利用の様子を読み取ることができるか。	
11			②	小3 小4 小5	○				○		45.0%	3.2%			地形の様子を読み取り、八方位を正しく理解しているか。	
12			③	小5	○					○		75.2%	2.8%			資料から正しい情報を読み取ることができるか。
13			④	小5	○					○		65.5%	5.0%			品種改良について正しく理解しているか。
14		(2)	小5	○					○		30.8%	1.1%			資料から正しい情報を読み取ることができるか。	
15	(3)	小5	○					○		56.5%	5.1%			米の消費量の増大に向けた、国や市の取組の理由について説明することができるか。		
16	4	(1)	小4 小5			○			○		63.4%	1.2%			資料から正しい情報を読み取ることができるか。都道府県を正しく理解できているか。	
17		(2)	小5			○			○		73.6%	0.7%			資料から正しい情報を読み取ることができるか。	
18		(3)	小5				○		○		57.3%	3.6%			栽培漁業について正しく理解できているか。	
19		(4)	小5				○		○		68.8%	5.8%			水産業に関わる人々の取組について、資料から読み取ったことを基に説明することができるか。	
20	5	(1)	小5				○		○		63.6%	4.8%			日本の主な工業地帯の名称と位置を理解しているか。	
21		(2)	小5				○		○		70.4%	4.5%			日本の工業地帯・地域が海沿いに多く立地している理由について説明することができるか。	
22		(3)	小5				○		○		68.9%	6.7%			輸送に着目して、関東内陸工業地域が内陸部に立地している理由について説明することができるか。	
23	6	(1)	小5				○		○		70.0%	1.1%			自動車工場の周辺に関連工場が多く立地しているよさについて説明することができるか。	
24		(2)	小5				○		○		63.5%	6.4%			海外における現地生産のよさについて説明することができるか。	
25		(3)	小5				○		○		68.0%	1.1%			消費者の需要や社会の変化に合わせて自動車が開発されていることを理解しているか。	
26	7	(1)	小5					○	○		75.1%	2.3%			2つの資料から正しい情報を読み取ることができるか。	
27		(2)	小5					○	○		78.1%	1.4%			3つの資料から正しい情報を読み取ることができるか。	
計				問題数	9	6	4	6	2	18	9					
				出題割合	33.3%	22.2%	14.8%	22.2%	7.4%	66.7%	33.3%					
												65.3%	2.4%			



(3) 社会<小学校第5学年>

ア 特徴ある問題から 大問3 (3)

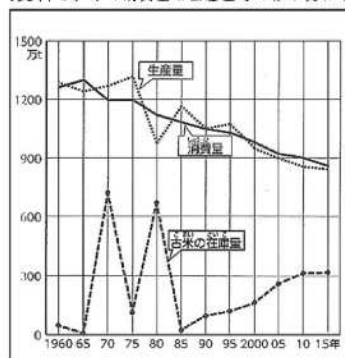
(小学校学習指導要領解説 社会編 (2)我が国の農業や水産業における食料生産 P81)

学習指導要領解説には、「国民の主食を確保する上で重要な役割を果たしている「稲作」については必ず取り上げる。(中略)学習したことを基に、生産性や品質を高める工夫を消費者や生産者の立場に立って多角的に考え、これからの農業や水産業における食料生産の発展に向けて自分の考えをまとめることができるよう指導することが大切である。」とあります。

そこで本問題では、単に「稲作」について学習した内容の知識・技能を答えるだけの問題ではなく、複数の資料から読み取り、生産性や品質を高める工夫を説明する問題を出題、具体的には、地図の読み取り、グラフの読み取り(知識・技能)を出題し、さらにグラフから変化について読み取り、米の消費量の増大に向けた、国や市の取組の理由について説明する問題(思考・判断・表現)を出題しています。

本問題における通過率は56.5%となっています。原因として、基本的なグラフの読み取り方が身に付いていないと考えられます。そこで、次のような視点での授業改善が考えられます。

(資料3) 米の消費量と生産量等の移り変わり



(資料4) 国の取組を伝える新聞記事

**「やっぱりごはんでしょ！」**  
 農業の関係者の取組を応援するため、国は「やっぱりごはんでしょ！」運動を平成30年10月から開始しました。インターネット上で、米に関するイベントや季節の行事、産地の情報など様々な情報を発信しています。

(資料5) 鹿児島市の取組を伝える新聞記事

**米粉に注目！**  
**米粉の活用セミナー 鹿児島市**  
 米の消費量が年々減少する中、注目が集まっているのが「米粉」です。米粉からできたおかしもあるということで、その幅広い活用方法を知ってもらおうというセミナーが鹿児島市で開かれました。このセミナーには、様々な市町村の農業関係者などおよそ80人が参加しました。

(3) 資料4と資料5は、国や鹿児島市などが行っている取組を取り上げた新聞記事です。国や鹿児島市などは、なぜこのような取組を行っているのでしょうか。資料3を参考にし、その理由を次の□の中に書きましょう。

通過率  
56.5%

イ 授業改善のポイント

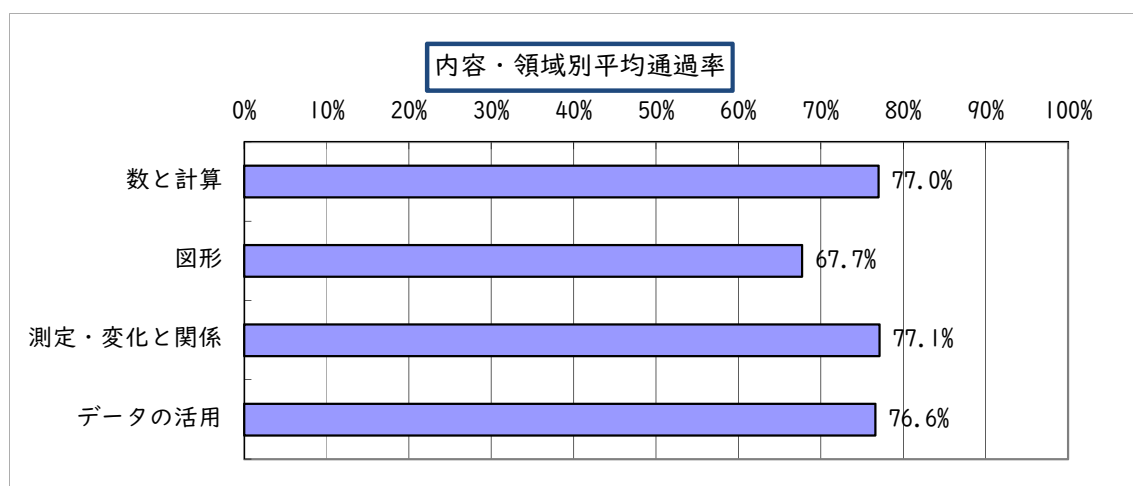
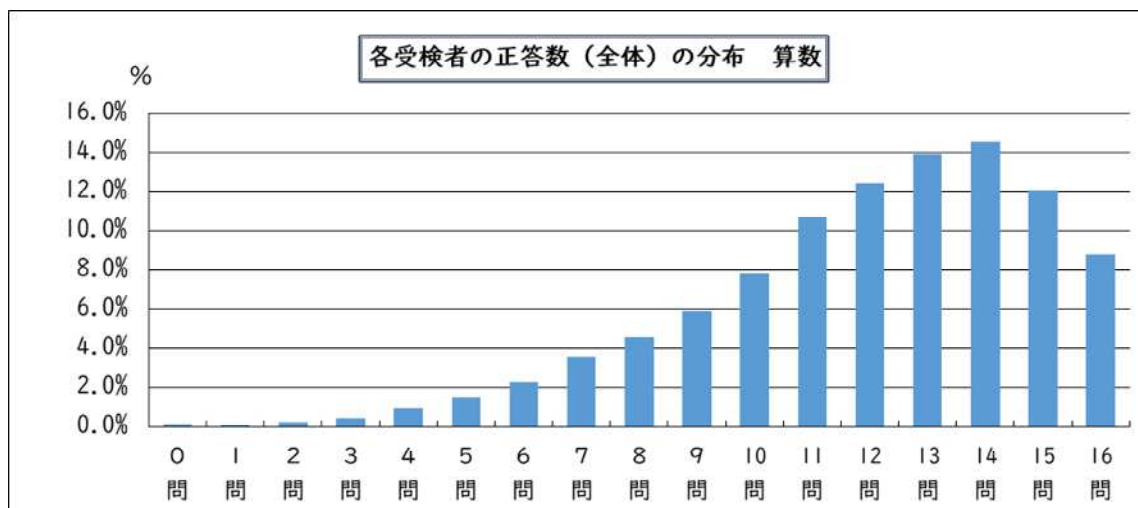
グラフの見方 (読み取り方)		
⇒ 「表題の3点・単位の2点・変化の5点」を意識させ、変化の5点に焦点を当てた授業の実践を行いたい。		
	読み取るポイント	
表題の3点	・表題(タイトル)は?	・グラフが何を示しているのかが端的に分かる。 … 最初に確認!
	・年度は? ・出典は?	・年度の新しいほうが資料としての価値が高い。
単位の2点	・縦軸の単位は?	・その数量の単位 → 円? トン? など … 読み上げて確認する。
	・横軸の単位は?	・通例、年度になる → 毎年の数値か? 2年おきか? など … 数字を横に見ながら、確認する。
変化の5点	A 段々上がる	・グラフの傾向をつかむ。 ・CとDには要注意。 → そのようになった原因、理由、背景等を考える。
	B 段々下がる	
	C 突然上がる	
	D 突然下がる	
	E 変化なし	

◎ 社会科では、資料活用の技能を身に付けさせることが欠かせません。  
 授業において、グラフ等を読み取る場面を多く取り入れ、変化の5点を意識させることが有効だと考えます。  
**【実践例】**  
 「漁業別の生産量の変化」  
 → 沖合漁業増加、遠洋漁業減少  
 「米の消費量と生産量の変化」  
 「米の作付面積の変化」  
 → 消費量の減少、生産量の減少、作付面積の減少

小学校第5学年【算数】

(1) 算数の平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率				
	知識・技能	小5	中1	中2
	73.3%	80.2%	76.0%	
	思考・判断・表現	76.2%	66.2%	55.5%
全体	74.6%	74.3%	68.8%	



- 「知識・技能」に関する問題の平均通過率は73.3%です。図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成する問題が64.4%、複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や加法性を基に捉え、比べる問題が63.5%、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解しているかを問う問題が48.5%であり、課題となっています。
- 「思考・判断・表現」に関する問題の平均通過率は76.2%です。示された小数の除法の求め方について、整数に直した除法の商が何を表しているかを判断する問題が68.4%、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方を判断・説明する問題が65.2%、単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定する問題が50.8%であり、課題となっています。
- 内容・領域別の平均通過率では、「図形」領域が67.7%でもっとも低くなっています。授業においては、基本図形の面積の求め方を、図形を構成する要素などに着目して、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、説明したりする活動を積極的に取り入れる必要があります。

(2) 各設問の分類と平均通過率

算数(小学校第5学年)

設問	出題学年			学習指導要領の領域				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図	
	大問	中問	小問	数と計算	図形	測定変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率		
1	1	(1)	小3	○				○		86.7%	0.2%			除法の意味を理解し、それらが用いられる場合について知るとともに、示された除法の結果について、日常生活の場面に即して求めることができるか。	
2		(2)	小4 小5	○				○		67.5%	0.3%			商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができるか。	
3		(3)	小5	○					○		85.5%	0.2%			1mにあたる代金を基に、0.6m分の代金を求める場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができるか。
4		(4)	小5	○					○		68.4%	0.1%			示された小数の除法の求め方について、整数に直した除法の商が何を表しているかを判断することができるか。
5	2	(1)	小4	○				○		64.4%	0.2%			図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成することができるか。	
6		(2)	小4	○				○		77.7%	0.1%			四角形の対角線の性質を正しく理解しているか。	
7		(3)	小5	○					○		63.5%	0.2%			複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や加法性を基に捉え、比べることができるか。
8		(4)	小5	○					○		65.2%	1.0%			示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方を判断・説明することができるか。
9	3	(1)	① ②	小5				○		93.4%	0.4%			一方の量がそろっていることに気付き、もう一方の量から混み具合を判断することができるか。	
10		(1)	③ ④	小5				○		94.7%	0.4%			一方の量がそろっていることに気付き、もう一方の量から混み具合を判断することができるか。	
11		(2)	小5					○		48.5%	0.3%			単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解しているか。	
12		(3)	小5					○		71.9%	1.5%			場面を表した図に関連付けて単位量当たりの大きさを求める除法の式をたてることができるか。	
13	4	(1)	小5					○		50.8%	0.2%			単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができるか。	
14		(2)	小4					○		82.1%	0.2%			示された事柄について、二つの表を基に読み取ることができない事柄を特定することができるか。	
15		(3)	小4					○	○		94.3%	0.1%			折れ線グラフから数量を読み取ることができるか。
16		(4)	小4					○	○		79.0%	0.2%			2つの折れ線グラフを比べ、それぞれの変化量を読み取り、変化の様子を正しく判断することができるか。
計			問題数	4	4	4	4	9	7						
			出題割合	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	56.3%	43.8%						
										74.6%	0.3%				



(3) 算数<小学校第5学年>

ア 特徴ある問題から 大問3 (2)

(小学校学習指導要領解説 算数編〔第5学年〕 C「変化と関係」(2)イ(ア)と関連 P264)

学習指導要領解説には「単位量当たりの大きさの学習においては、まず、一つの量だけでは比較することができない事象に着目することが大切である。次に、そのような量は、どのようにすると比べることができるかを考えたり、数値化することができるかを考えたりすることが大切である。」とあります。そこで本問題では、単に人数やシートの面積が同じである問題ではなく、人数やシートの面積だけに着目したのでは混み具合を比べることができない場面を取り上げ、出題しています。

すわっている人数とシートの面積		
	人数 (人)	シートの面積 (㎡)
A班	9	6
C班	7	5

その際、式の意味が理解できているかを見るため、二人の会話から、りんさんの考えによる式のみを提示する出題をしています。

はると  
りん

A班とC班は、すわっている人数もシートの面積もちがうね。

A班とC班のどちらがこんでいるかを調べるために、次のような計算をしました。  
A班 :  $9 \div 6 = 1.5$   
C班 :  $7 \div 5 = 1.4$

上のりんさんの計算からどのようなことがわかりますか。  
下のア～エまでの中から1つ選んで、その記号を□に書きましょう。  
ア 1㎡あたりの人数は1.5人と1.4人なので、A班のほうがこんでいる。  
イ 1㎡あたりの人数は1.5人と1.4人なので、C班のほうがこんでいる。  
ウ 1人あたりの面積は1.5㎡と1.4㎡なので、A班のほうがこんでいる。  
エ 1人あたりの面積は1.5㎡と1.4㎡なので、C班のほうがこんでいる。

本問題における平均通過率は48.5%となっています。単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を捉えることができていない原因として、式が何を意味しているかを読み取る活動を取り入れた授業や、単位量当たりの大きさが明確になるような授業がされていない可能性があります。そこで本調査問題を活用した、次のような視点での授業改善が考えられます。

イ 授業改善のポイント

アとCのどちらの班の方が、混み合っていると考えられますか。

このままではシート上の人がかたよっているので、どちらの班の方が混んでいるかわかりません。

① A班とC班の様子を表した図を整理して表し直す

かたよりがないように、ならべてみました。

すっきりしたけど、まだどちらの班の方が混んでいるか、この図ではわかりません。

C班にそろえて、A班を、たて1m、よこ6mの長方形と考えると、図をつくり直しました。また、班を1㎡ごとに分けて、1㎡あたりの人数を表しました。

A班の方がC班よりも混んでいるように見えます。でも、本当に正しいか確かめる方法はないかな。

② A班とC班の混み具合を図をもとに式で表す

①の考えを生かして、どちらが混んでいるかを他の方法でも確かめることはできそうですか。

(人数) ÷ (面積) をすると、1㎡あたり何人かを求めることができます。

図で考えたことを使って、A班の方が混んでいることを式で確かめることができました。

一人当たりの面積で比べる方法もあります。

一人当たりの面積を求めるなら、(面積) ÷ (人数) をすればよいと思います。

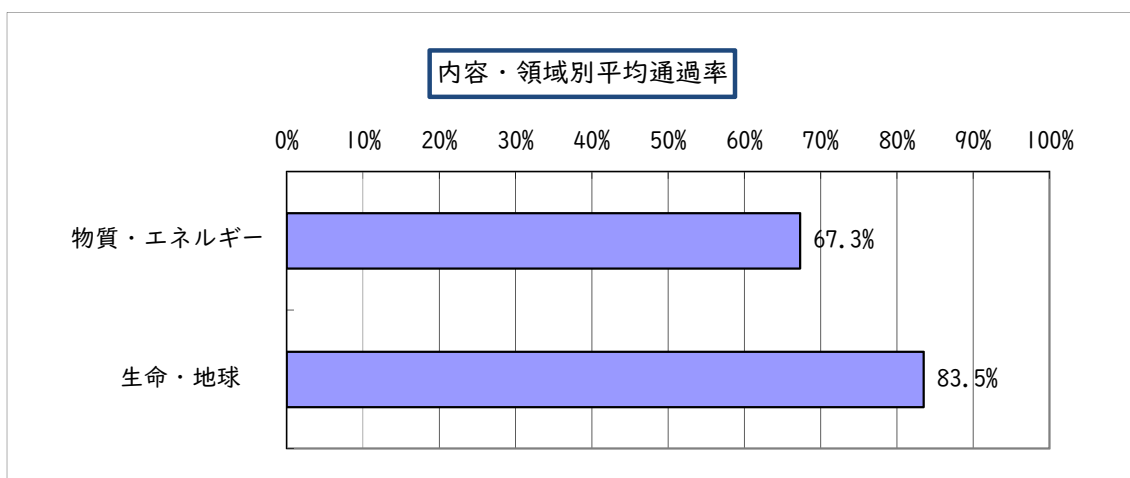
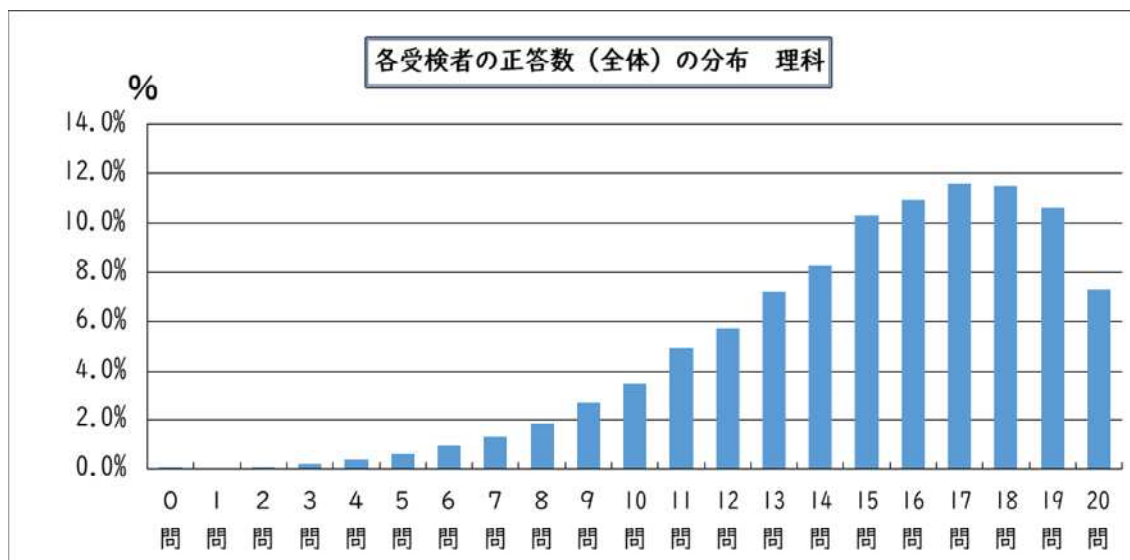
※ 国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成26年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」を基に作成

混み具合を比べる場合は、単位量当たりの大きさが明確になるように図に工夫して表し、その図を根拠に式を立てて求めることが大切です。

小学校第5学年【理科】

(1) 理科の平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	77.6%	69.5%	77.7%
	思考・判断・表現	72.8%	60.5%	54.1%
	全体	75.4%	66.3%	66.9%



- 「知識・技能」の平均通過率は77.6%でおおむね良好ですが、小3の学習内容である大問3(2)の電気を通す物と磁石に引き付けられる物を理解しているかを問う設問では、通過率が46.7%と低くなっています。実験をする際には、児童が磁石を身の回りの物に近付けたときの様子に着目し、それらを比較しながら、磁石の性質について調べる活動を通して、理解を図ることが大切です。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は72.8%でおおむね良好です。大問4(2)の乾電池のつなぎ方による電流の大きさと向きに関する問いの通過率が65.2%となっています。例年児童が苦手とする内容ですが、昨年度の類題より13.1ポイント上回っており、改善が見られつつあります。
- 内容・領域別の平均通過率については、生命・地球の領域は80%を上回りおおむね良好です。物質・エネルギーの領域は67.3%とやや課題が見られます。今後も日常的に理科の見方・考え方を働かせながら、身の回りの事物・現象を考えるよう働きかけていくことが大切です。

(2) 各設問の分類と平均通過率

理科(小学校第5学年)

	設問			出題学年	内容領域別		評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中問	小問		A 物質・エネルギー	B 生命・地球	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	1		小5		○		○	72.3%	0.0%			植物の成長に肥料が関係しているという予想や仮説を検証するために、条件を制御した実験方法を考えることができるか。
2		2		小5		○	○	○	92.8%	0.0%			植物の成長に日光が必要なことを理解しているか。
3	2	1		小4		○	○	○	91.7%	0.6%			骨と骨のつなぎ目の名称について理解しているか。
4		2		小4		○	○	○	70.1%	0.0%			人の体の動きと筋肉の働きの関係について理解しているか。
5	3	1		小3	○			○	55.6%	0.1%			気付いたことや話し合ったことを基にした問題を見いだすことができるか。
6		2		小3	○			○	46.7%	1.0%			電気を通す物と磁石に引き付けられる物について理解しているか。
7		3		小3	○			○	86.4%	0.1%			3つの実験結果を比較して、磁石の性質について考えることができるか。
8	4	1		小4	○			○	66.6%	1.5%			電気の通り道の名称について理解しているか。
9		2		小4	○			○	65.2%	0.2%			モーターの回る様子と乾電池のつなぎ方とを関係付けて考えることができるか。
10	5	1		小4	○			○	80.2%	0.6%			水を熱したときの水の様子と温度変化との関係について理解しているか。
11		2		小4	○			○	71.4%	0.1%			水を冷やしたときの水の様子と温度変化との関係について理解しているか。
12	6	1		小3		○	○	○	85.6%	0.1%			方位磁針の使い方について理解しているか。
13		2		小5		○	○	○	69.5%	0.1%			雲の動きと天気の変化について理解しているか。
14	7	1		小5		○	○	○	93.5%	0.1%			川の侵食の作用について理解しているか。
15		2		小5		○	○	○	91.5%	0.3%			石の様子から上流と下流の川を判断することができるか。
16		3		小5		○		○	78.5%	0.2%			要因を基に、変化させる条件と変化させない条件を決め、条件を制御した実験方法を考えることができるか。
17		4		小5		○		○	89.3%	0.1%			流れる水のはたらきと防災教育との関連を意識して考えることができるか。
18	8	1		小5	○			○	85.1%	0.1%			メスシリンダーの使い方について理解しているか。
19		2		小5	○			○	50.9%	0.1%			温度による溶ける量の違いについて、予想したことに対する実験結果の見通しを適切に考察することができるか。
20		3		小5	○			○	65.0%	0.1%			食塩水とミョウバン水における水の温度と水に溶ける量の変化とを関係付けて考えることができるか。
計				問題数	10	10	11	9					
				出題割合	50.0%	50.0%	52.4%	42.9%					
									75.4%	0.3%			

(3) 理科<小学校第5学年>

ア 特徴ある問題から 大問 8 (2)

(小学校学習指導要領解説 理科編 特徴ある問題として、全国学力・学習状況調査の問題作成の枠組みを踏まえた問題を出題しています。本問題は、その枠組みの視点「構想」を基に作成しています。「構想」は、問題解決の道筋を構想し、根拠のある予想や仮説を発想したり、解決の方法を発想したりするなど、自分の考えをもつことができるかどうかを求めています。

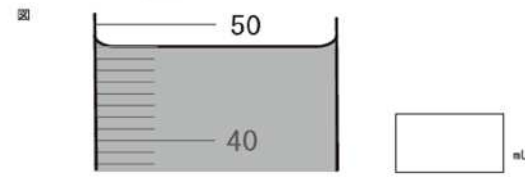
本問題は、物が水に溶ける量に着目して、水の温度や量といった条件を制御しながら、物の溶ける量やその変化を調べ、物の溶け方のきまりについての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現できるかを問う問題です。

本問題における平均通過率は **50.9%** となっています。原因として、授業で実験や観察を行う際に児童が結果の見通しを具体的にもつことができていないことが考えられます。そこで、次のような視点での授業改善が求められます。

(1) 物の溶け方 P63)

8 太郎さんたちは、食塩とミョウバンが水にとける様子について調べることにしました。次の各問いに答えましょう。

(1) メスシリンダーで50mLの水を正しくはかりとります。図のように50の目盛りよりも下まで水を入れました。50mLの水をはかりとるためには、このあとスポイトで何mLの水を入れるとよいですか。□に数字を書きましょう。



太郎さんたちは、20℃の水50mLに食塩とミョウバンを計量スプーンですり切り1ばいずつとかし、物が水にとける量について調べる実験を行いました。

太郎： 20℃の水50mLでは、食塩は6はい、ミョウバンは2はいとけたよ。  
 正子： もっとたくさんを量をとかしたいな。  
 太郎： 水の温度を40℃に上げると、食塩もミョウバンもたくさんを量をとかすことができるのではないかな。

(2) 太郎さんの下線部の考えが正しければ、水の温度を40℃に上げたときの実験結果はどのようなものと考えられますか。下のア～エの中から最も適切なものを1つ選んで、その記号を□に書きましょう。

ア	食塩	すり切り6はいとける
	ミョウバン	すり切り2はいとける
イ	食塩	すり切り6はいとける
	ミョウバン	すり切り4はいとける
ウ	食塩	すり切り12はいとける
	ミョウバン	すり切り2はいとける
エ	食塩	すり切り12はいとける
	ミョウバン	すり切り4はいとける

**通過率 50.9%**

エ

イ 授業改善のポイント

【学習課題】 水よう液にとけ残った物をとくすには、どうすればよいのだろうか。

<予想場面>

C1：水の量を増やしたり、水の温度を上げたりするとよいと思うよ。

C2：私は、温度を上げてもとける量はあまり変わらないと思うよ。

T：では、自分の予想を確かめるためには、どんな方法で実験し、どんな結果になればよいですか。

C1：水の量を100mlや150mlに増やしてとける量を調べる。

水の量	50ml	100ml	150ml
とける	すり切り	すり切り	すり切り
食塩の量	6はい	12はい	18はい
とけるミョウバンの量	すり切り	すり切り	すり切り
	2はい	4はい	6はい

C2：水の温度を40℃、60℃に上げてとける量を調べる。

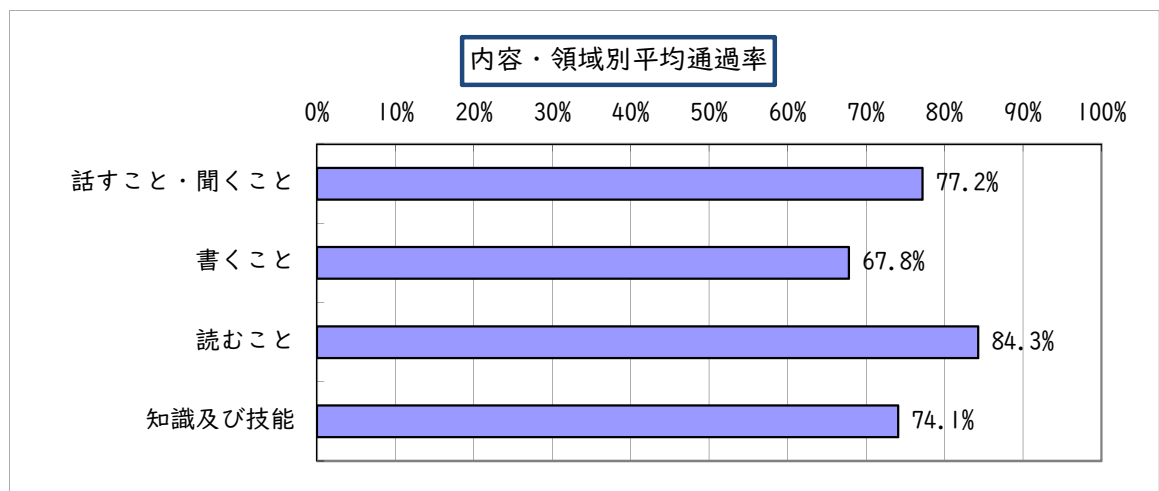
水の温度	20℃	40℃	60℃
とける	すり切り	すり切り	すり切り
食塩の量	6はい	6はい	6はい
とけるミョウバンの量	すり切り	すり切り	すり切り
	2はい	2はい	2はい

自らの予想や仮説を基に観察、実験を計画する際に、自分の考えが正しければどのような結果になるのか、結果の見通しを具体的に表現するように働きかけます。

この例の場合は、「とける量が増える」という定性的な表現だけでなく、「すり切り何杯になりそうか」というように定量的に表現させることで「水の量が2倍、3倍になっているからとける量も2倍、3倍になる。」などと根拠が明確になり、他者と比較する際に相違点が明確になります。これによって着眼点が焦点化され、主体的に観察、実験を行うことにつながります。

(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	80.1%	74.1%	62.6%
	思考・判断・表現	60.4%	77.6%	67.9%
	全体	68.5%	75.9%	65.6%



- 「知識・技能」の平均通過率は74.1%と、70%を超えており、概ね学習内容の定着が図られていることが分かります。一方、大問1(1)「漢字の書き」の無答率は11.0%、大問1(3)「漢字の部首」の平均通過率は35.9%と、低い結果になっています。国語科の様々な言語活動はもちろんのこと、日常生活や各教科等の中で、機会があるごとに漢字を意識するよう工夫し、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けるなど漢字を正しく用いる態度と習慣を養うことが大切です。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は77.6%と、70%を超えています。また、令和4年度より13.2ポイントも上回っており、授業改善を進めながら学習内容の定着が図られていることが分かります。昨年度課題であった「読むこと」の平均通過率が84.3%となり、28.9ポイントの改善が図られました。大問2については、「文章のリライト」や「物語の展開」など過去の全国学力・学習状況調査で課題が見られた内容の類似問題を出題しています。今後も指導事項を明確にしながら、相手・目的意識のある言語活動を通じた授業改善を進めることが大切です。
- 生徒質問紙において、「授業で、タブレットやパソコン、電子黒板等をどれくらい活用していますか」については、「ほぼ毎日使用している」と回答した割合が12.3%と、他の教科・学年より低い結果になっています。特に、考えを共有したり推敲したりする場面では、ICT機器を効果的に活用することができるため、積極的に活用することが大切です。



(2) 各設問の分類と平均通過率

国語(中学校第1学年)

	設問			内容領域別				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図			
	大問	中問	小問	出題学年	知識及び技能 話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率				
1		一	1	小4 小6	○			○		93.8%	0.6%			学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で正しく読んだり、書いたりすることができるか。			
2			2	小4	○			○		70.9%	11.0%						
3		二	1	小5 (漢字は 小2)	○			○		77.4%	0.1%			文意や熟語の意味から正しい漢字を判断することができるか。			
4			2	小5 (漢字は 小5)	○			○		82.6%	0.0%						
5		三		小学校 中学年	○			○		35.9%	0.0%			漢字の部首名を正しく答えることができるか。			
6	1	四		中1	○			○		67.8%	0.0%			単語を理解し、適切に区切ることができるか。			
7		五		小学校 中学年	○			○		62.3%	0.2%			故事成語の意味を正しく理解することができるか。			
8		六		中1	○			○		67.6%	0.1%			文脈上の正しい語句の意味を理解しているか。			
9		七	1	中1	○			○		91.3%	0.1%			古文の内容と古語の意味を正しく理解しているか。			
10			2	中1	○			○		78.7%	0.1%						
11			3	中1	○				○		84.5%	1.0%					
12		一		中1			○		○	87.6%	0.3%			文脈の中における語句の意味を捉えることができるか。			
13		二	ア	小学校 高学年			○		○	77.9%	3.9%			文章と図表などを結び付けて内容を捉えることができるか。			
14					イ			○		○	90.9%	3.5%					
15					三	中1			○		○	87.3%	0.4%				場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるか。
16					四	中1			○		○	80.1%	0.3%				場面の展開、登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解することができるか。
17		一		中1	○			○		77.0%	1.7%			原因と結果、意見と根拠など情報と情報の関係について理解することができるか。			
18		三	二	中1			○		○	82.0%	0.8%			文章の構成や展開について根拠を明確にして考えることができるか。			
19			①	中1		○			○	70.8%	14.0%			根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるか。			
20			②	中1		○			○	49.8%	15.5%						
21		一		中1		○			○	70.0%	0.8%			目的や意図に応じて、必要に応じて質問して話の内容を捉えることができるか。			
22		四	二	中1		○			○	84.3%	5.1%			必要に応じて記録しながら話の内容を捉えることができるか。			
23			条件1	中1		○			○	80.0%	11.0%			目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるか。			
24			条件2	中1		○			○	70.6%	11.9%			根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章を書くことができるか。			
計				問題数	12	2	4	6	12	12							
			出題割合	50.0%	8.3%	16.7%	25.0%	50.0%	50.0%								
										75.9%	3.4%						

(3) 国語<中学校第1学年>

ア 特徴ある問題から 大問 3

(中学校学習指導要領解説 国語編

「B 書くこと」 P62~65)

特徴ある問題として、過去の全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査の結果から課題となっている「伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすること。」「複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること。」について出題しています。

**中間3**

大山さんは、【本の一部】を引用して、【大山さんの文章の下書き】Aの部分を書こうとしています。あなたならどう書きますか。以下の条件にしたがって書きなさい。

<条件>

- ①【本の一部】から引用して書くこと(引用部分は「」を用いること)。
- ②【本の一部】の内容に対する意見を、大山さんの立場で述べること。
- ③七十文字以上、百十文字以内で書くこと。

本問題の観点②「引用した部分に対する自分の考えを具体的に書くこと。」における平均通過率は **49.8%**、無答率は **15.5%** となっています。原因として、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかどうかを確かめる授業や、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見い出すような授業が十分になされていない可能性があります。

そこで、次のような視点での授業改善が考えられます。

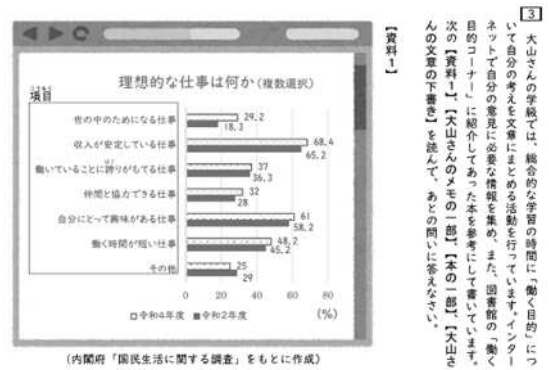
イ 授業改善のポイント

単元の中で、[知識及び技能](2)ア「情報と情報との関係」と、「書くこと」を関連付けながら、系統性を踏まえた授業を行う必要があります。第1学年では、他者の意見を理解したり、自分の意見を述べたりする言語活動に取り組む中で、話や文章の中に含まれている情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えて整理したり、意見と意見を支える根拠を明らかにしたりすることが重要です。

一人で記述する(「考えの形成、記述」,「推敲」)時間、グループ等で話し合う(「共有」)時間を確保しましょう。具体的には・・・

- 自分が選択した情報を図示するなど、どのように考えたか伝わるように説明する。
- 友達がどの情報を選択し、どのように考えたかを聞き、質問や反論をする。
- 自分が選択しなかった他の情報を選択し、新たな考えや根拠を記述し説明する。

本問題では、根拠となる事実の引用や「大山さんの立場」で文を考える際に、どの表現に着目するかが大事になります。  
【大山さんの下書きの文章】第3段落の「しかし」に着目すると、第2段落に書かれている「収入(お金)」が目的でないことが分かります。



大山さんのメモの一部

①ビのような仕事は理想的かについて

◆【資料】のグラフから分かったこと  
どのような仕事かという点について、令和2年度、令和4年度と、収入が安定している仕事を選ぶ割合が増えている割合が最も大きい。

【本の一部】

私自身、サービス業に携わる者として、毎日多くの人とコミュニケーションをしますが、疲れるながらも、やはり多くのものをもらっていると思います。そして、その場合に得るのはやはり、働くことの第一義である「他者からの『アテンション』」の一種ではないでしょうか。自分自身には「私はなぜ働いているのか」と問うてみる必要があります。すると、いろいろ考えたあげく、他者からのアテンションを求めているからという答えが返ってきます。お金は必要ですし、地位の必要はないという答えも返ってきます。それによって、社会の中にある自分を再確認できるし、自分にとっていいのだという安心感が得られる。そして、自信にもつながっているような気がします。

(要約中) 「協働力」より

大山さんの文章の下書き

働く目的

「将来の夢は何ですか。」  
中学生になってから周りの人たちによく聞かれる質問です。私はこの質問にどうも答えられないままです。今、総合的な学習の時間をとおして、働く目的について考え、将来の夢について考える機会となりました。インターネットで調べたところ、収入が安定している仕事」が理想的だと選ぶ割合が高くなっています。確かに多くの人の働く目的は収入を得るためなのかもしれません。

しかし、「協働力」(要約中)では

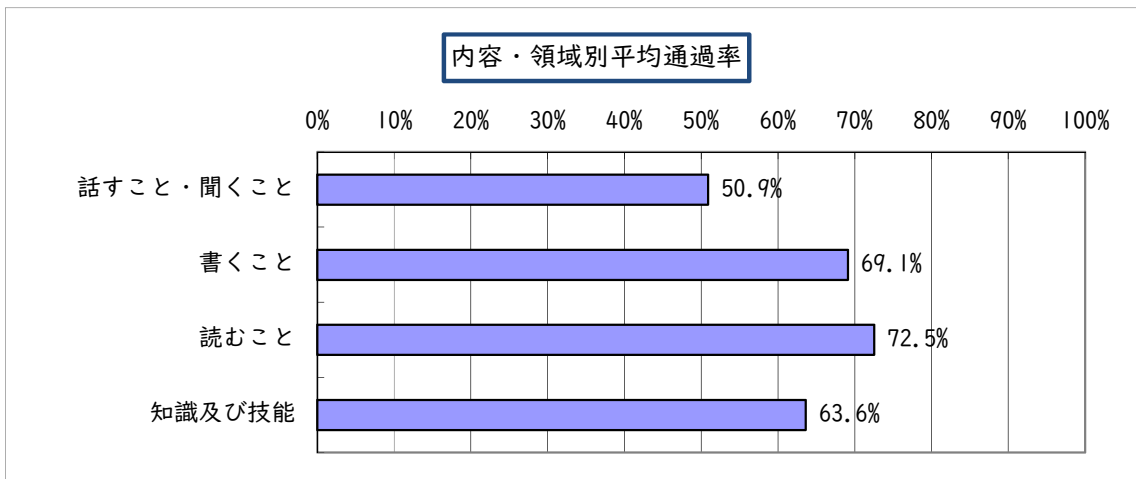
私の父(五十二歳)にたずねてみたところ、「収入のために働いている」といふ、確かにそういうこともあるだろうね。ただし、長いこと仕事をしていて、たくさんの方々から感謝されたときは、自分これまでの仕事の向き合い方はまちがっていなかったんだと励まされた。これこそが社会の中でいかに人々と関わって仕事をしてきたよかったです。と感じたりすることがあるよ。」と答えてくれました。

父が経験したこと重要ですが、私は以親、地域清掃の仕事の補助をするボランティア活動に参加したことがあります。清掃活動は広く、こみこみと時間がかかりました。作業の途中で通りすがりの方が、「大変ですね、ありがとうございます。」といった声をかけてもらったことがありました。そのときはうれしきはちやん、ボランティアの仕事を通じて社会の一員として関わることができた充実感や、やりがいを感じることができました。

だから、私は(以下、略)

(1) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率				
		小5	中1	中2
	知識・技能	80.1%	74.1%	62.6%
	思考・判断・表現	60.4%	77.6%	67.9%
全体	68.5%	75.9%	65.6%	



- 「知識・技能」の平均通過率は62.6%と、70%を下回っており、授業改善を進め学習内容の定着を図る必要があります。特に、大問1(6)「行書」の平均通過率は37.5%と低い結果になっています。行書の問題は、令和4年度の平均通過率も46.6%と低い状況にあります。行書の指導に当たっては、生徒自らが行書の特徴に気付き、どのようにすればこれらの特徴を生かした書き方ができるのかを考えることができるように、話し合いや観点に沿った振り返りを単元に取り入れることが大切です。また、行書の特徴に合わせて、自分が書いた文字を自己評価させるような活動も大切です。
- 「思考・判断・表現」の平均通過率は67.9%と、令和4年度より8.0ポイント下回っており、更なる授業改善を進め学習内容の定着を図る必要があります。特に、「話すこと・聞くこと」の平均通過率は50.9%と、昨年度より24.1ポイント下回っています。大問4(1)「発言の意図」の平均通過率は40.1%、大問4(3)「説明の構成」の平均通過率は40.9%と、低い結果になっています。これらの「非連続型テキスト」を用いた問題は、令和4年度鹿児島学習定着度調査の類似問題です。「非連続型テキスト」を活用した言語活動を位置付ける授業改善を進める際は、指導事項を明確にしなが一つのテキストから様々な問いを設定し、見方を広げたり考え方を深めたりすることが大切です。
- 全体を通して、中学1年や小学5・6年の指導事項を出題した問題については、平均通過率が低い結果になっています。授業では、既習の教科書教材を活用し、復習を取り入れながら「前学年(単元)との違い」を明確にし、系統を意識した単元づくりを行うことが大切です。

## (2) 各設問の分類と平均通過率

## 国語(中学校第2学年)

	設問			出題学年	内容領域別				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図	
	大問	中問	小問		知識及び技能	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率		
1			I	中1	○				○		75.0%	3.3%			学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で正しく読んだり、書いたりすることができるか。	
2			2	小4 小6	○				○		61.8%	7.0%				
3			二	小5 小6	○				○		68.8%	0.5%				
4			三	小5 中2	○				○		69.2%	0.1%				尊敬語を正しく理解しているか。
5			四	中2	○				○		60.9%	0.2%				形容動詞の活用を理解しているか。
6			五	小6 中2	○				○		62.0%	0.1%				熟語の構成を理解しているか。
7			六	中1 中2	○				○		37.5%	0.3%				行書の特徴を理解しているか。
8			I	中1	○				○		78.1%	1.7%				文語のきまりを理解しているか。
9			七	2	中2	○			○		79.2%	0.1%				古語の意味を理解しているか。
10				3	中2	○			○		43.6%	0.2%				古文を読んで、文意を捉えることができるか。
11			一	中1				○	○		52.2%	0.3%			表現の技法を理解しているか。	
12			二	中1				○	○		56.9%	13.7%			文章の表現の効果について捉えることができるか。	
13			三	中1				○	○		78.4%	0.2%			場面の展開や登場人物の心情の変化をなどについて、描写をもとに捉えることができるか。	
14			四	中1				○	○		82.9%	0.3%			場面の展開や登場人物の心情の変化をなどについて、描写をもとに捉えることができるか。	
15			I	中2				○	○		79.1%	0.6%			登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができるか。	
16			五	中2				○	○		85.4%	4.3%			登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができるか。	
17			一	中1			○		○		57.9%	0.4%			読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える視点をもっているか。	
18			二	中2			○		○		35.7%	0.5%			伝えたいことがわかりやすく伝わるように、文章の構成や展開を工夫することができるか。	
19			三	条件1 中1			○		○		81.9%	6.9%			書く内容の中心が明確になるように、文章の展開を考えられているか。	
20			三	条件2 中2			○		○		86.2%	7.2%			自分の考えが伝わる文章になるように、工夫できているか。	
21			一	中1	○				○		40.1%	0.9%			話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるか。	
22			二	中2	○				○		71.6%	1.1%			目的や場面に応じて話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるか。	
23			三	小学校 高学年	○				○		40.9%	1.9%			話の内容が明確になるように、事実と感想・意見を区別するなど、話の構成を工夫することができるか。	
24			四	条件1 中2			○		○		78.3%	12.1%			論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるか。	
25			四	条件2 中2			○		○		74.8%	13.4%				
計					問題数	10	3	6	6	11	14					
					出題割合	40.0%	12.0%	24.0%	24.0%	44.0%	56.0%					
												65.6%	3.1%			



(3) 国語<中学校第2学年>

ア 特徴ある問題から 大問 3  
 (中学校学習指導要領解説 国語編  
 「B 書くこと」 P93~95)

特徴ある問題として、過去の全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査の結果から課題となっている「複数の資料から適切な情報を得てそれらと比較したり関連付けたりすること。」「文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価すること。」について出題しています。

**中問2**

次の□は、コメントB「なぜ読書の紹介はこの四つにしたの？」に対して、佐藤さんが返信したものの一部です。この返信は、あとのア～エのどれについて説明しようとしたものだと考えられますか。

**【佐藤さんの返信（一部）】**

読書の効果は、学力など自分の力を伸ばすことに間わるものだけではないということ、読者に印象付けるために、この効果も紹介することにしました。

ア 登場人物の気持ち等を考えることで、想像力がきたえられる効果を紹介した理由。

イ 確かな知識が身に付くことで、自分の世界が広がることを紹介した理由。

ウ 語彙力が高まり、様々な表現が使えるようになることを紹介した理由。

エ 読書が、音楽やゲームよりも高いストレス軽減効果をもつことを紹介した理由。

【佐藤さんが書いた学校新聞原稿】

—読書週間のお知らせ—

来週からいよいよ読書週間です。図書委員会は、何週間も前から準備をしてきました。この機会に、ぜひたくさんの方に読んでほしいと思います。ところで、みなさんは、読書にはどのような効果があると思いますか。

まず、想像力が豊かになるということです。登場人物の気持ちを想像したり、文章表現から状況を思い浮かべたりすることで、想像力がきたえられていきます。

次に、確かな知識が身に付くということです。読書から得られる知識は、自分の世界を広げてくれます。

さらに、語彙力が上がり、様々な言葉を使えるようになることです。言葉の選択技が広がると、自分の伝えたいことを適切な言葉で表現できるようになります。

最後に、リラクゼーション効果があるということです。イギリスの大学の調査によると、読書には音楽を聴くことやゲームをすることよりもストレス軽減効果が大きいそうです。

みなさんも、ぜひ読書週間に読書の効果を実感してみてください。

また、先週行った購入希望の本に関するアンケートには、多くの人が参加してくれましたが、その中で最も票を集めた「かがみの孤城」が、新刊図書として入荷され、新刊コーナーに並んでいるので、ぜひ借りて読んでみてください。

他にも企画がたくさん用意しています。読書週間を楽しみに待っていてください。

コメントA

コメントB

なぜ読書の効果の紹介はこの四つにしたの？

コメントC

知識を身に付けるには読書がいいと言え根拠は何なのかな。インターネットで検索した方が早くないかな。

コメントD

コメントE

3 佐藤さんは、図書委員として読書週間の準備を行っています。読書について、たくさんの人に興味をもってもらうために、学校新聞の記事を載せようと考え、パソコンのワープロソフトを用いて記事を書きました。書いた記事のデータを図書委員の他のメンバーと共有したところ、ワープロソフトのコメント機能を使って、いくつかの意見が寄せられました。次は、「佐藤さんが書いた学校新聞原稿」とそこに寄せられたコメントです。これらを読み、あとの問いに答えなさい。

本問題における平均通過率は35.7%、無答率は0.5%となっています。原因として、根拠が確かな事実や事柄に基づいたものであることや、自分の考えが事実や事柄に対する適当な解釈から導き出されていることなど、根拠の適切さ（根拠が自分の考えを支えるものであるかどうか）を検討するような授業、または、書き手が目的と意図に応じてどのような表現の工夫をし、それはどのような効果があったかなど、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すような授業が十分になされていない可能性があります。そこで、次のような視点での授業改善が考えられます。

イ 授業改善のポイント

単元の中で、[知識及び技能] (2)ア「情報と情報との関係」と、「書くこと」を関連付けながら、系統性を踏まえた授業を行う必要があります。第2学年では、他者の意見を理解したり、自分の意見を述べたりする言語活動に取り組む中で、話や文章の中に含まれている情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりしながら、意見と意見を支える根拠を明らかにするとともに、意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方を理解することが重要です。

評価規準（「おおむね満足できる」状況（B））を明確にして、生徒の記述を適切に評価したり、生徒自身が評価の観点を意識する言語活動を設定したりしましょう。具体的には・・・

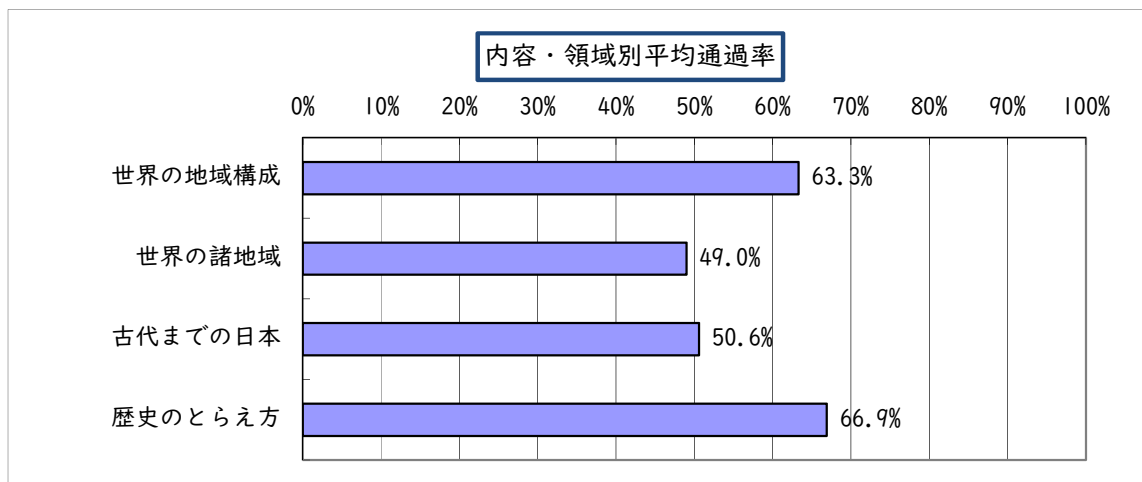
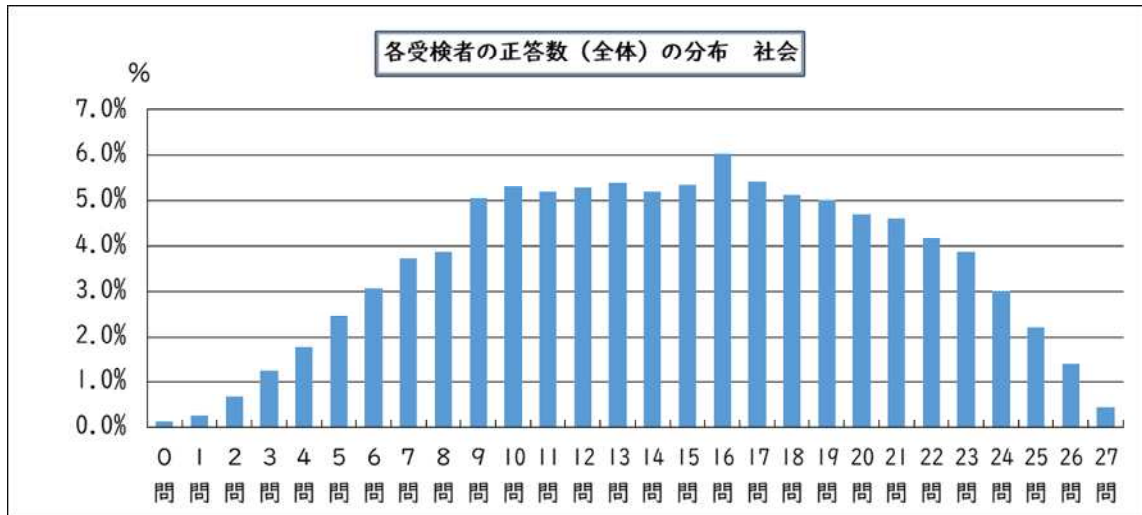
- 実際の言語活動を踏まえて、授業前にループリックやゴールモデルを作成する。ループリックを基に、生徒の反応を分析して指導を行ったり、ゴールモデルから生徒が評価規準を考えたりする活動を設定する。
- 単元内に相互評価や自己評価を計画的に位置付ける。目的や意図、根拠となる情報など、観点を明確にした相互評価を行ったり、他者からの意見等を踏まえた振り返りを設定したりする。

本問題では、【学級新聞原稿】【佐藤さんの返信】それぞれの文章の、どの表現に着目するかが大事になります。  
 【学級新聞原稿】の「まず」「次に」など接続する語句に着目して、「読書の四つの効果」を確認します。また、【佐藤さんの返信】の「自分の力を伸ばすことに関わるものだけではない」から、四つの違いを分類していきます。



(1) 中1平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率		小5	中1	中2
	知識・技能	64.6%	52.9%	60.6%
	思考・判断・表現	66.6%	57.3%	65.5%
	全体	65.3%	54.4%	62.3%



- 「知識・技能」に関する問題の平均通過率は 52.9%と低い状況です。特に、インドで多く信仰されているヒンドゥー教を問う問題 (44.7%)、写真と説明から「フィヨルド」を問う問題 (40.6%)、中国の王朝名「漢」(55.2%)を問う問題の通過率が低くなっています。基本的な用語、地名等については、十分な理解を図る必要があります。社会科は教科の特性上、用語の理解等が多いことから、日常の授業の中で、折に触れて、定期的に復習を行う機会を設けたりして、確実な定着を図る工夫も必要です。
- 「思考・判断・表現」に関する問題の平均通過率は 57.3%であり、アフリカの多くの国が抱える経済問題を説明する問題 (48.9%) や荘園の成り立ちの流れを説明する問題 (26.9%) の通過率が低くなっています。例えば、歴史においては、歴史的事象の背景や原因等を考える授業を行うとともに、意図的に資料の読み取りや比較などを取り入れる必要があります。
- 内容・領域別で平均通過率が低かったのは「世界の諸地域」で、ヨーロッパの農業の特色を問う問題は 35.8%と定着が図られていませんでした。また、岩倉使節団に随行した大久保利通の写真を選択する問題 (69.1%) など、郷土 (鹿児島県) に関する問題は、知識として身に付けてほしいです。

(2) 各設問の分類と平均通過率

社会(中学校第1学年)

	設問			出題学年	内容領域別					評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中間	小問		世界と日本の地域構成	世界各地の人の生活と環境	世界の諸地域	古代までの日本	歴史のとらえ方	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	(1)	小5中1	○					○		63.0%	0.3%			緯度や経度を使って、世界の都市の位置を理解しているか。	
2		(2)	中1	○					○		46.0%	0.1%			正距方位図法の特徴を理解し、資料から判断することができるか。	
3		(3)	中1	○					○		65.8%	0.4%			時差の求め方を理解しているか。	
4		(4)	小5中1	○					○		78.6%	4.8%			日本が沖ノ鳥島の護岸工事を行っている理由について説明することができるか。	
5	2	(1)	中1			○			○		44.7%	0.6%			世界の宗教の広がりを理解しているか。	
6		(2)	中1			○			○		68.4%	0.2%			東南アジアの地域協力組織(東南アジア諸国連合)について理解しているか。	
7		(3)	中1			○			○		80.0%	0.3%			中国の経済発展や工業について、資料を基に判断することができるか。	
8		(4)	中1			○			○		36.6%	10.5%			アフリカ州の自然について理解しているか。	
9		(5)	中1			○			○		48.9%	9.9%			アフリカの多くの国が抱えている経済問題を説明することができるか。	
10	3	(1)	中1			○			○		40.6%	19.3%			ヨーロッパの地形について理解しているか。	
11		(2)	中1			○			○		59.1%	3.0%			ヨーロッパの気候に影響を与えている風を理解しているか。	
12		(3)	中1			○			○		35.8%	0.5%			ヨーロッパの農業について理解しているか。	
13		(4)	中1			○			○		24.7%	0.6%			EUの特色について理解しているか。	
14		(5)	中1			○			○		51.7%	12.3%			EU拡大による域内の課題について資料を読み取り、説明することができるか。	
15	4	(1)	中1				○		○		47.1%	0.6%			古代文明の特徴を理解しているか。	
16		(2)	中1				○		○		52.0%	0.3%			資料を読み取り、縄文人の生活の様子を理解しているか。	
17		(3)	中1				○		○		55.2%	5.5%			2世紀ごろの日本や世界の様子を理解しているか。	
18		(4)	中1				○		○		57.6%	12.6%			大和政権の影響が及ぼす範囲を説明することができるか。	
19	5	(1)	中1				○		○		86.4%	2.5%			聖徳太子が目指した国づくりについて、2つの資料から正しく読み取ることができるか。	
20		(2)	中1				○		○		43.7%	1.0%			7世紀ごろの東アジアと日本の様子について理解しているか。	
21		(3)	中1				○		○		26.9%	23.2%			墾田永年私財法が制定された背景や結果を説明することができるか。	
22		(4)	中1				○		○		47.1%	13.2%			奈良時代の文化を理解しているか。	
23		(5)	中1				○		○		39.7%	18.8%			摂関政治の特徴について説明することができるか。	
24	6	(1)	中1				○	○			78.0%	2.3%			世紀の表し方を理解しているか。	
25		(2)	A	中1				○	○		54.9%	10.3%			時代を区分する時代名の表し方を理解しているか。	
26			B	中1				○	○		65.8%	8.7%			時代を区分する時代名の表し方を理解しているか。	
27	(3)	小6					○	○		69.1%	0.9%			鹿児島出身の人物が行ったことについて理解しているか。		
計				問題数	4	0	10	9	4	18	9					
				出題割合	14.8%	0.0%	37.0%	33.3%	14.8%	66.7%	33.3%					
												54.4%	6.0%			

(3) 社会<中学校第1学年>

ア 特徴ある問題から 大問3 (2), (3)

(中学校学習指導要領解説 社会編 B(2)世界の諸地域 P47,48)

学習指導要領解説には、「① アジア」、「② ヨーロッパ」、「③ アフリカ」、「④ 北アメリカ」、「⑤ 南アメリカ」、「⑥ オセアニア」の六つの州からなる小項目で構成している。(中略)各州の自然、産業、生活・文化、歴史的背景などについて概観し、その結果として基礎的・基本的な知識を身に付けることを意味している。」とあります。

そこで本問題では、「② ヨーロッパ」の自然、産業について、雨温図からその特徴を読み取り、そこで行われている農業の特色を説明する問題を出题しています。

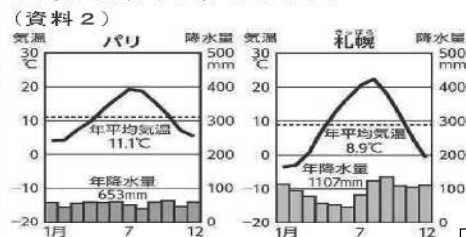
本問題における通過率は35.8%となっています。原因として、気候などの地理的な条件が農業の特色に影響を与えていることについて、理解が不足していると考えられます。そこで、次のような視点での授業改善が考えられます。

(2) 資料2は、地図中のパリと日本の札幌の雨温図である。ヨーロッパ州の気候の特色について述べた次の会話文の( )に当てはまる適当な語句を答えなさい。

(生徒) 地図帳を見ると、札幌よりもパリのほうが高緯度に位置しています。

(先生) 札幌よりも高緯度に位置しているパリのほうが冬の気温が高いのはなぜでしょうか。海流や風に着目して考えてみましょう。

(生徒) 札幌は、寒流のリマン海流と季節風の影響を受け、冬の気温が低くなっています。一方、パリは、暖流である北大西洋海流と( )風によって、あたたかい空気が運ばれ、冬が比較的温かくなっていると考えられます。



通過率  
59.1%

(3) 地図中の⑥の地域の農業の特色について述べた文として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア やぎや羊などを飼育する遊牧が行われている。
- イ 小麦やライ麦などの穀物を主に生産している。
- ウ 切り払った樹木を燃やした灰を肥料として利用する焼畑農業が行われている。
- エ 乾燥に強いオリーブやぶどう、オレンジなどの果実を栽培している。

通過率  
35.8%

イ 授業改善のポイント

雨温図の読み取り方		
キーワード	折れ線グラフ	棒グラフ
1 平均	・平均気温は何度？	・平均降水量は何mm？
2 高い(多い)	・最も気温が高いのは何月？	・最も降水量が多い月は何月？
3 低い(少ない)	・最も気温が低いのは何月？	・最も降水量が少ない月は何月？
4 差	・最も気温が高い月と低い月との差は何度くらい？	・最も降水量が多い月と少ない月との差は何mmくらい？
5 特徴	・気温の変化にはどんな特徴があるか？	・降水量にはどんな特徴があるか？

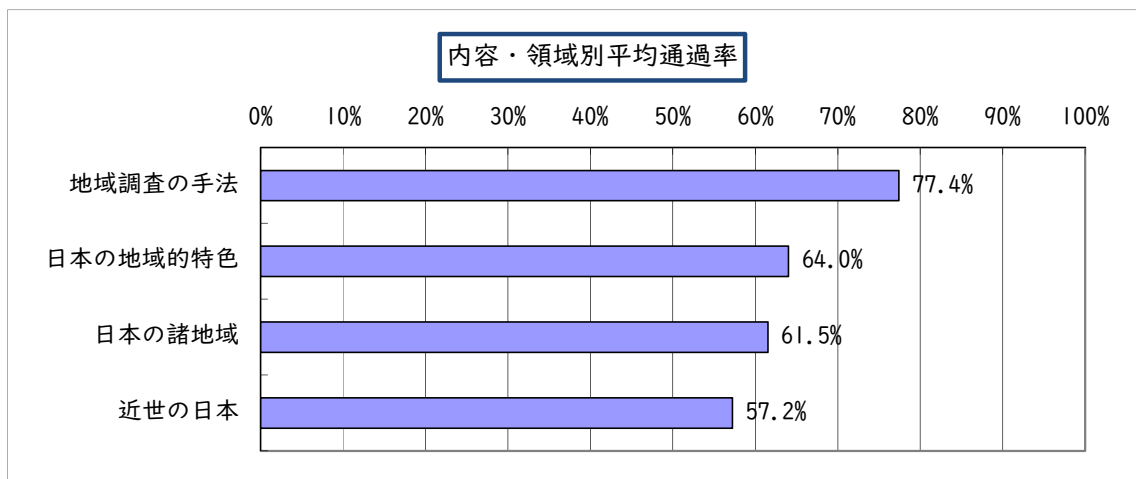
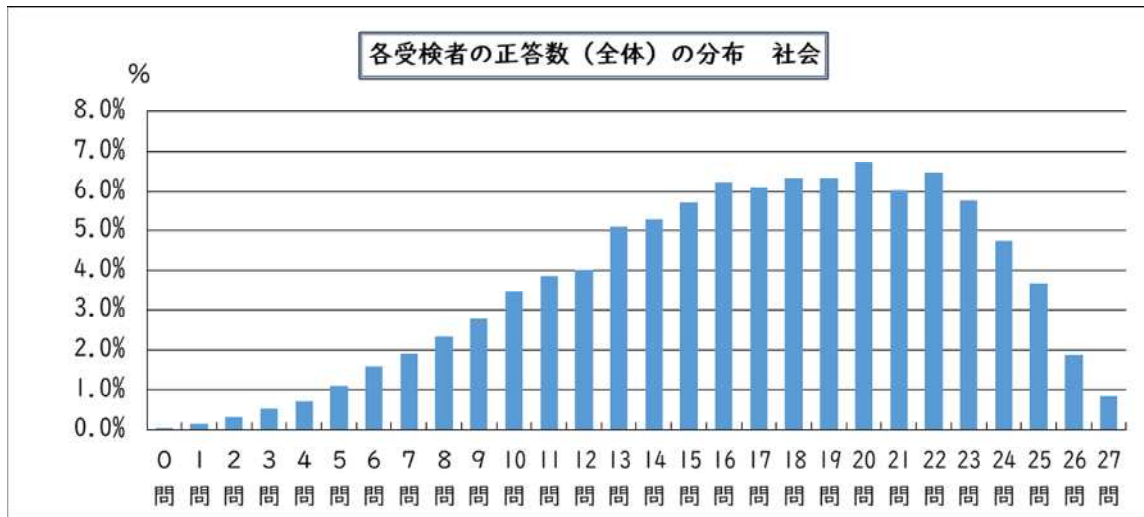
授業では、雨温図から分かる1年間の気温差、降水量の多い(少ない)月などの気候的な特徴と該当都市の緯度や地形などの地理的な条件に着目させ、気候を決定する要素は何かを考えさせることが大事です。例えば、①まず、雨温図の読み取り方を学習する時間を設定する。②次に、いくつかの都市を指定して、適切な課題を設けて行う学習に取り組みさせる。③そして、既習学習を生かしてその他の雨温図の学習を行うなどの授業が考えられます。

※ 農業の特色

- ① 気候的な特徴(雨温図からの読み取り)
- ② 該当都市の緯度や地形などの地理的な条件

(1) 中2平均通過率と受検者の正答数分布

学年別平均通過率				
		小5	中1	中2
	知識・技能	64.6%	52.9%	60.6%
	思考・判断・表現	66.6%	57.3%	65.5%
全体	65.3%	54.4%	62.3%	



- 「知識・技能」に関する問題の平均通過率は 60.6%と低い状況です。特に、写真と説明から「三角州」を問う問題 (50.7%)、国内生産と海外生産のグラフから産業の空洞化を問う問題 (44.3%)、江戸時代の特産物の分布地図から商品作物を問う問題 (46.6%) の通過率が低くなっています。基本的な用語、地名等については、十分な理解を図る必要があります。社会科は教科の特性上、用語の理解等が多いことから、日常の授業の中で、折に触れて、定期的に復習を行う機会を設け、確実な定着を図る工夫も必要です。
- 「思考・判断・表現」に関する問題の平均通過率は 65.5%であり、水力発電の立地条件を説明する問題 (50.7%) やイエズス会のアジア進出の流れを説明する問題 (43.6%) の通過率が低くなっています。これらの問題は、設問そのものを学習課題として設定して、1 単位時間の授業の中で取り扱うなど工夫を行い、思考力・判断力・表現力を図ることが大切です。
- 内容・領域別で平均通過率が低かったのは「近世の日本」で、江戸時代の政治を問う問題は 36.2%と定着が図られていませんでした。また、シラスの特徴を説明する問題 (45.6%)、薩摩焼の歴史を問う問題 (39.9%) など、郷土 (鹿児島県) に関する問題は、知識として身に付けてほしいです。

(2) 各設問の分類と平均通過率

社会(中学校第2学年)

	設問			出題学年	内容領域別				評価の観点		県平均		校内平均		出題の意図
	大問	中間	小問		地域調査の手法	日本の地域的特色	日本の諸地域	近世の日本	知識・技能	思考・判断・表現	通過率	無解答率	通過率	無解答率	
1	1	(1)	小4中2	○				○		78.7%	0.1%			縮尺について理解しているか。	
2		(2)	小4中2	○				○		63.8%	0.1%			地図の記号等を基に、地形図を読み取ることができるか。	
3		(3)	小4中2	○					○	73.0%	1.0%			等高線を読み取り、ルートを判断した理由を説明することができるか。	
4		(4)	小4中2	○					○	94.0%	0.1%			ハザードマップの意義や自然災害の種類、防災について理解しているか。	
5	2	(1)	中2		○				○	50.7%	5.7%			地形の特色の一つである三角州について理解しているか。	
6		(2)	中2		○				○	68.3%	3.2%			瀬戸内の気候について、雨温図や模式図を用い、季節風との関係から説明することができるか。	
7		(3)	中2		○				○	50.7%	3.6%			日本の発電所の分布について、資料と関連付け、立地条件を説明することができるか。	
8		(4)	中2		○				○	65.0%	0.4%			産業の分類について理解しているか。	
9		(5)	中2		○				○	85.2%	0.3%			滋賀県の位置を理解しているか。	
10	3	(1)	中2			○			○	45.6%	0.5%			九州地方の自然環境について理解しているか。	
11		(2)	中2			○			○	64.3%	4.8%			資料から、所要時間とみよがの取扱量の変化を関連付けて説明することができるか。	
12		(3)	中2			○			○	82.9%	0.4%			日本の工業や人口の特色について、理解しているか。	
13		(4)	中2			○			○	70.6%	6.9%			資料から、静岡県・長野県の気候を比較し、レタスの取扱量と関連して説明することができるか。	
14		(5)	中2			○			○	44.3%	11.5%			国内の産業の動向を理解しているか。	
15	4	(1)	中2				○	○		61.2%	0.4%			新航路の開拓について理解しているか。	
16		(2)	中2				○	○		43.6%	12.0%			宗教改革とその後のヨーロッパの海外進出を結び付けて説明することができるか。	
17		(3)	中2				○		○	89.4%	1.7%			織田信長の戦い方について理解し、説明することができるか。	
18		(4)	中2				○	○		91.5%	0.6%			豊臣秀吉の統一事業について理解しているか。	
19		(5)	中2				○	○		39.9%	0.5%			文禄・慶長の役がもたらした陶磁器文化を理解しているか。	
20	5	(1)	中1				○	○		65.7%	2.3%			世紀と西暦の関係を理解しているか。	
21		(2)	中2				○	○		72.0%	7.1%			参勤交代における大名の負担を、資料から読み取ることができるか。	
22		(3)	中2				○	○		40.3%	1.0%			鎖国体制に至るまでの対策や出来事を理解しているか。	
23		(4)	中2				○	○		77.9%	5.7%			琉球王国と薩摩藩の関係を理解しているか。	
24	6	(1)	中2				○	○		46.6%	16.5%			江戸時代の産業の発達について理解しているか。	
25		(2)	中2				○	○		57.3%	10.1%			江戸幕府による産業と交通について、資料を基に説明することができるか。	
26		(3)	中2				○	○		36.2%	1.3%			江戸時代の政治について理解しているか。	
27		(4)	中2				○	○		21.7%	1.4%			江戸時代の文化の特色について理解しているか。	
計				問題数	4	5	5	13	18	9					
				出題割合	14.8%	18.5%	18.5%	48.1%	66.7%	33.3%					
											62.3%	3.7%			



### (3) 社会<中学校第2学年>

#### ア 特徴ある問題から 大問6 (3)

(中学校学習指導要領解説 社会編 B 近世までの日本とアジア(3)近世の日本 P109)

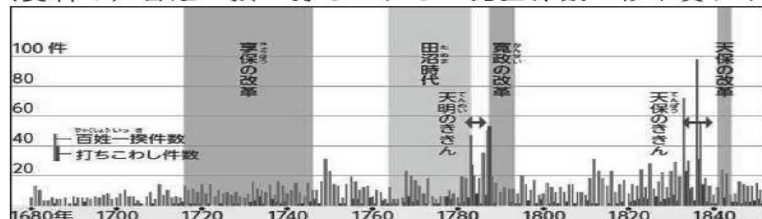
学習指導要領解説には、「幕府の政治改革については、「百姓一揆などに結び付く農村の変化や商業の発達などへの対応という観点から、代表的な事例を取り上げる(内容の取扱い)ようにする。その際、財政の悪化などの背景や、改革の結果などに触れる。」とあります。

そこで本問題では、江戸時代の改革が行われた歴史的背景を捉え、松平定信が寛政の改革を行った中心人物であることを理解し、具体的にどのような内容であったかを説明する(選択する)問題を出題しています。

本問題における通過率は36.2%となっています。原因として、江戸時代の改革について原因・理由・背景等の流れを十分に理解していないことが考えられます。そこで、次のような視点での授業改善が考えられます。

(3) 資料4は、百姓一揆・打ちこわしの発生件数の移り変わりを表している。資料5の松平定信が、政治と経済を立て直すために行った改革の内容について説明している文として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

(資料4) 百姓一揆・打ちこわしの発生件数の移り変わり (資料5)



- ア 凶作やききんにそなえて、米をたくわえさせた。
- イ 商人に株仲間を作ることをすすめ、特権をあたえるかわりに営業税を納めさせた。
- ウ 江戸や大阪周辺の土地を、幕府の直接の支配地にしようとした。
- エ 上げ米の制を定め、新田開発を進めるなど年貢を増やす政策を行った。

通過率  
36.2%

#### イ 授業改善のポイント

江戸時代の改革については、すべてを学習した後に、「あなたならどの改革を支持するか」などのテーマで時間を設定する授業を提案します。①人物を選ぶ。②その理由をまとめる。③それぞれの改革を確認する際、比較しながらまとめる。社会科は教科の特性上、用語の理解等が多いことから、まとめる等の時間を設定することで定着も図られ、有効であると考えます。しかしながら、時間を生み出すためには、授業の計画段階で、学校や生徒の実態に応じてカリキュラムマネジメントを行ったりするなど、工夫する必要があります。

これからの授業のありかた 教師の観の変換が鍵だと考えます。

#### 1 授業改善のかべ＝「入試」からの脱却

中学校では「入試のために」という理由で、知識注入を中心とした授業が行われているのが現状です。それでは、入試が変われば(なくなれば)、知識注入を中心とした授業は変わるのでしょうか。社会科の授業は、「教師が知識を与え、生徒はそれを受け取って覚えるものだ」という授業観が根深くあり、これまでの授業のありかたを見直す必要があります。

#### 2 生徒が充足感・成就感をもてる授業の実現

学ぶことが楽しいという経験を中学校の社会科(特に歴史)でも体験させる必要があるのではないのでしょうか。そのためには、小学校で行われている「参加型の授業」を積極的に導入する必要があります。小学校では、中学校以上に子供の活動を重視した授業が実践されています。

#### 【参考】

「小中社会科の授業づくり～社会科教師はどう学ぶか～」  
浅井陽介・唐木清志(東洋館出版社 2021年)を基に作成